

DPRI Award 設立の趣旨および第 5 回 DPRI Award 受賞者決定の経緯

研究教育担当副所長 澁谷拓郎

防災研究所は、国内外で発生する自然災害を研究対象とすることから、従来から国際交流協定の締結、国際共同研究、海外災害調査や留学生・海外共同研究者の受け入れなど積極的に取り組んできました。平成 22 年度に認定され開始した共同利用・共同研究拠点は平成 28 年度から 2 期目に入り、今年度の中間評価では A 評価となりました。また、防災研究所が事務局を務める世界防災研究所連合（GADRI）は今年度、第 4 回世界防災研究所サミットを開催いたします。このように防災研究所は頻発する国内外での自然災害に備えるための国際防災研究拠点として、その地位を確立するために、様々な新しい取り組みを推進しています。

これらの一環として平成 23 年 3 月に「京都大学防災研究所国際表彰規程」が制定され、DPRI Award が設立されました。その表彰の要件は概略下記のとおりです。

- 1) 防災研において、客員教員や共同研究者などとして滞在し、セミナーや共同研究などを実施し、防災研の研究教育に成果を上げた方
- 2) 防災研が主催する研究集会等において、基調講演、招待講演等を務め、又は企画運営に携わり、防災研の活動に貢献した方
- 3) 防災研が実施する国際共同研究及び現地調査等において貢献した方

平成 25 年度には第 1 回の防災研究所国際表彰 DPRI Award をカリフォルニア工科大学名誉教授の金森博雄博士に授与いたしました。また、平成 26 年度には第 2 回 DPRI Award をメキシコ自治大学教授のフランシスコ・サンチェズセスマ博士に、平成 27 年度には第 3 回 DPRI Award をウォータールー大学教授のキース・ハイペル博士に授与いたしました。平成 28 年度の第 4 回 DPRI Award では、ローザンヌ大学教授のミシェル・ジャボイエドフ博士に「研究教育貢献賞」を、国際応用システム分析研究所のリスク・レジリエンスプログラムに「国際学術貢献賞」を授与いたしました。

今回平成 30 年度の国際表彰について、平成 30 年 11 月に防災研究所の川

瀬特定教授から推薦があり、表彰選考委員会で慎重に審議しました。その結果、ネバダ大学リノ校教授のジョン・グレッグ・アンダーソン博士を「研究教育業績賞」として、第5回の防災研究所国際表彰 DPRI Award の受賞者として所長に推薦することを決定いたしました。その後、所長の承認を受け、これを教授会に諮り承認されました。

アンダーソン教授は 1948 年米国に生まれ、1976 年にコロンビア大学から博士号 (Ph.D.) を取得後、南カリフォルニア大学やカリフォルニア大学サンディエゴ校での研究員、助教、講師を経て、1988 年にネバダ大学リノ校の理学部マッケイ地球科学・工学校に准教授として着任され、現在は教授として勤務されています。1998 年から 2009 年にはネバダ地震学研究所の所長を務められました。

アンダーソン教授は、地震の震源物理とそのモデル化、強震動特性の分析と評価、強震動予測式およびそれを用いた確率論的予測に関する研究など、強震動地震学の分野において重要な功績をあげた国際的に知名度の高い地震学者です。震源の滑り量の空間分布にフラクタル構造を仮定した震源モデルを提案され、さらに高振動数でスペクトルが減少するとして高域遮断パラメタを世界で最初に提案されました。そのモデルは現在でも有効な強震動予測手法の一つとして採用されています。また、メキシコのゲレロ州において、メキシコ初の強震観測網をメキシコの研究者と共同で敷設し、1985 年のミチョアカン地震で震源域における貴重な記録を観測し、それをいち早く世界に公開されました。また、不安定岩石の転倒限界加速度と年代から、長期にわたる地震ハザード評価の妥当性を検証する方法を提案されました。これらの研究成果は膨大な量の研究論文として発表されており、現在でも毎年数多くの研究論文を発表されています。2015 年にはその強震動予測に関する貢献が評価され、ブルース・A・ボルトメダルを強震観測機関コンソーシアム (COSMOS)、米国地震工学会 (EERI) および米国地震学会 (SSA) から授与されました。

防災研究所においては、外国人客員教授として 2017 年度から 2018 年度にかけて 3 か月、招へい外国人学者として 1998 年度、2015 年度および 2016 年度にそれぞれ 2～3 週間滞在され、「内陸地殻内地震の強震動特性における震源と地下構造の影響」に関する共同研究や研究指導をされるとともに、関連する講義やゼミナールを通じて、地震学、地震工学、耐震工学など地震防災に関する

る分野の若手研究者や学生への教育を熱心に行われました。

これらアンダーソン教授との共同研究や彼の学生・若手研究者への継続的な研究指導と教育の実績は防災研究所の国際プレゼンスの向上に大いに寄与してきました。アンダーソン教授にはこれまでのご貢献に深く感謝するとともに、今後も受賞者に授与される終身称号の **DPRI Fellow** として、防災研究所の研究・教育に大所高所からご指導・ご助言いただければ大変ありがたく存じます。